# 第１回日南町中心地域整備検討委員会　次第

と　き：令和６年４月２０日（土）
　　午後３時３０分～午後５時
ところ：日南町役場　交流ホール

**１　開　会**

**２　挨　拶（日南町長）**

**３　委嘱状交付**

**４　委員紹介（自己紹介）**

**５　委員長・副委員長選出**

**６　議　事**

**（１）会議の公開と会議録等について(案）・・・・・・・・・・・資料１**

**（２）日南町中心地域整備検討委員会の趣旨と進め方について・資料２**

**（３）日南町中心地域の検討に当たって・・・・・・・・・・・・資料３**

**（４）その他**

**７　閉　会**

**＜参考資料＞**

**○日南町中心地域整備検討委員会設置要綱・・・・・・・・・・・資料４**
**○第６次日南町総合計画（Ｒ２～１１年度）・・・・・・・・・・・別冊**
**○まちづくりアンケート調査結果（Ｒ５実施）・・・・・・・・・・別冊**
**○町営住宅整備に係るアンケート調査結果（Ｒ５実施）・・・・・・別冊**
**○日南病院新病院基本構想（Ｒ５答申）・・・・・・・・・・・・・別冊**
**○日南病院基礎調査報告書（Ｒ５実施）・・・・・・・・・・・・・別冊**

**※別冊は当日ご用意いたします。**

資 料 1

# 会議の公開と会議録等について（案）

| | | |
|---|---|---|
| （1）会議の公開関係 | 傍聴 | 可とする |
| | 定員 | 制限を設けない |
| | 会議資料 | 町ホームページに掲載する |
| | 周知方法 | 会議日程が決まり次第、町ホームページ等でお知らせする |
| （2）会議録関係 | 記載内容 | ①開催日時・場所<br>②出席委員及び欠席委員の氏名<br>③会議事項及び発言要旨 |
| | 発言者の表示 | 委員と表示（氏名は省略） |
| | 内容確認方法 | 会議録確認委員を会議ごとに議長が選任する |
| | 公表方法 | 町ホームページに掲載する |
| （3）会議の様子の写真 | | 町ホームページ、町SNS又は町広報誌への掲載を予定 |
| （4）委員名簿の公表 | | 町ホームページに掲載する |

**資 料 2**

# 日南町中心地域整備検討委員会の趣旨と進め方について

## 1 趣 旨

- 日南町は、1970 年代の統合中学校の新校舎建設を契機とし、2000 年の鳥取県西部地震による役場庁舎移転以降、20 年以上にわたって、住民生活に必要な機能を中心地域に集約させる「コンパクト・ヴィレッジ構想」を進めてきた。
- 「中心地域整備構想（2010 年度）」、「中心地域整備計画（2014 年度）」によりコンパクトなまちづくりへの方向性が示された。これ以降、特に霞地区では、ホームセンターやコンビニ、道の駅等の商業施設のほか、子育て支援センター、お試し住宅などの整備が加速化した。
- また、「第6次日南町総合計画（R2～11年度）」には、「まちづくりアンケート結果（2018 年度実施）」を踏まえ、中心地域への健康増進施設、世帯用住宅、雇用の場の総合的・一体的な整備検討が盛り込まれている。
- さらに、2023 年度には、日南病院の建て替え議論が本格化し、同年度末には「新日南病院基本構想」が町長に答申されるとともに、まちづくりに対する住民ニーズ等を把握するため、町は、「まちづくりアンケート」や「町営住宅整備アンケート」を実施した。

**人口減にあっても「持続可能なまち」であり続けるため、本町がこれまで進めてきた「コンパクト・ヴィレッジ構想」をさらに進化させ、新たな中心地域整備計画の策定に向けた協議等を行うため、検討委員会を設置する。**

## 2 検討の進め方

- 中心地域の機能強化や整備方針などについて、本検討会により協議等を行うとともに、ワークショップやパブリックコメントなどにより広く町民の皆様の意見を伺いながら、中心地域整備計画を策定するものとする。
- なお、本検討会の議事録やパブリックコメントの結果などについては、町のホームページ等を通じて広く一般に公開する。

## 3 検討スケジュール（案）

R6年4月20日：〇第1回中心地域整備検討委員会（検討方針等）

5月頃（～10月）：〇地域ワークショップ（7地域×各2回） ※R5年10月～実施（7地域×各1回）

7月頃：〇第2回中心地域整備検討委員会
（WS等を踏まえた計画骨子の提示、病院建設候補地の絞り込み（8→?））

10月頃：〇第3回中心地域整備検討委員会
（計画素案の提示、病院建設候補地ごとのまちデザイン案及び概算費）

11～12月頃：〇町民説明会、ちゃんねる日南での特番放映

〇パブリックコメント

12月頃：〇第4回中心地域整備検討委員会（計画策定【最速の場合】）

※町議会へは、進捗の都度、適宜、報告・協議を行う。

SDGs未来都市選定（2019）
2050年ゼロカーボンシティ宣言（2020）
内閣府・地方創生SDGs金融表彰（2021）
総務省・ふるさとづくり大賞（2021）
NIKKEI脱炭素アワード（2021）
行革甲子園 審査委員長特別賞（2022）

資料３

*Nichinan Town , Tottori Prefecture*

# 鳥取県日南町

## 日南町中心地域整備計画の策定に向けて　～コンパクトヴィレッジ構想2.0～

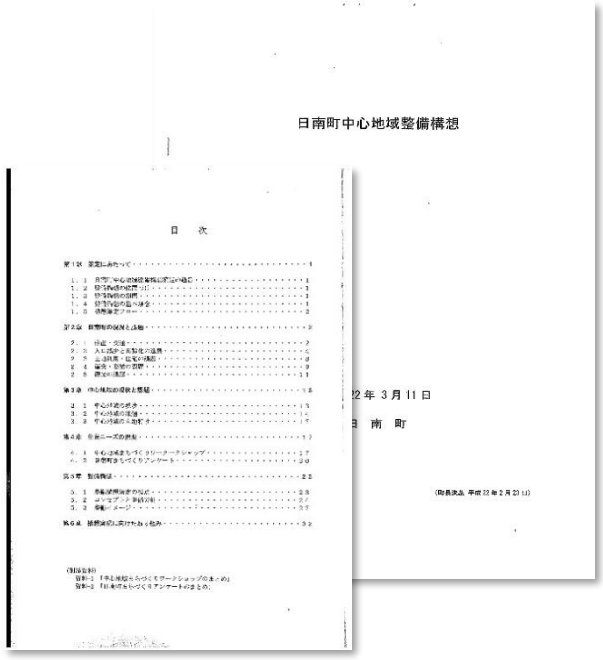
令和6年4月

# 日南町中心地域整備計画の策定に向けて

## 背景とこれまで

- 大正・昭和の合併を経て、1959年（S34年）に現在の「日南町」として誕生。以降、平成の大合併では「単独自立」を選択し、町政を進めてきた。
- しかしながら、町の人口は約１万６千人(1950年)をピークに減少を続け、「第５次総合計画（計画期間：H22～R元）」を策定したH22.３末は5,835人。
- そして、現在は約4,000人となり、戦後70年間で人口は約1/4に。

- H22.3末すでに町の高齢化率は45.2%に達しており、産業・商業の衰退、またそれらが起因して生じている人口集積や交通ネットワーク、公共施設整備などの非効率な行政課題が改めて浮き彫りとなった。


日南町中心地域整備構想

目　次

12 年 3 月 11 日

日　南　町

- 直面する人口減少と超高齢化が進展する中、町は「30年後の日南町の姿プロジェクト」を立ち上げ、持続可能な社会システムを構築するための検討を開始。
- また、町民アンケートやワークショップ等により町民ニーズを把握し、「日南町中心地域整備構想」を策定。
  → まちの中心地域として位置づけられる生山・霞地域を対象に、将来にわたり町が持続・発展していくためのまちづくりの方向性が示された。

# 「日南町中心地域整備構想」を経て、『コンパクトヴィレッジ構想』へ

**日南町中心地域整備構想（期間：平成22年度～令和元年度）**

**基本理念**　『日南町の活力を生み出すまちづくり』

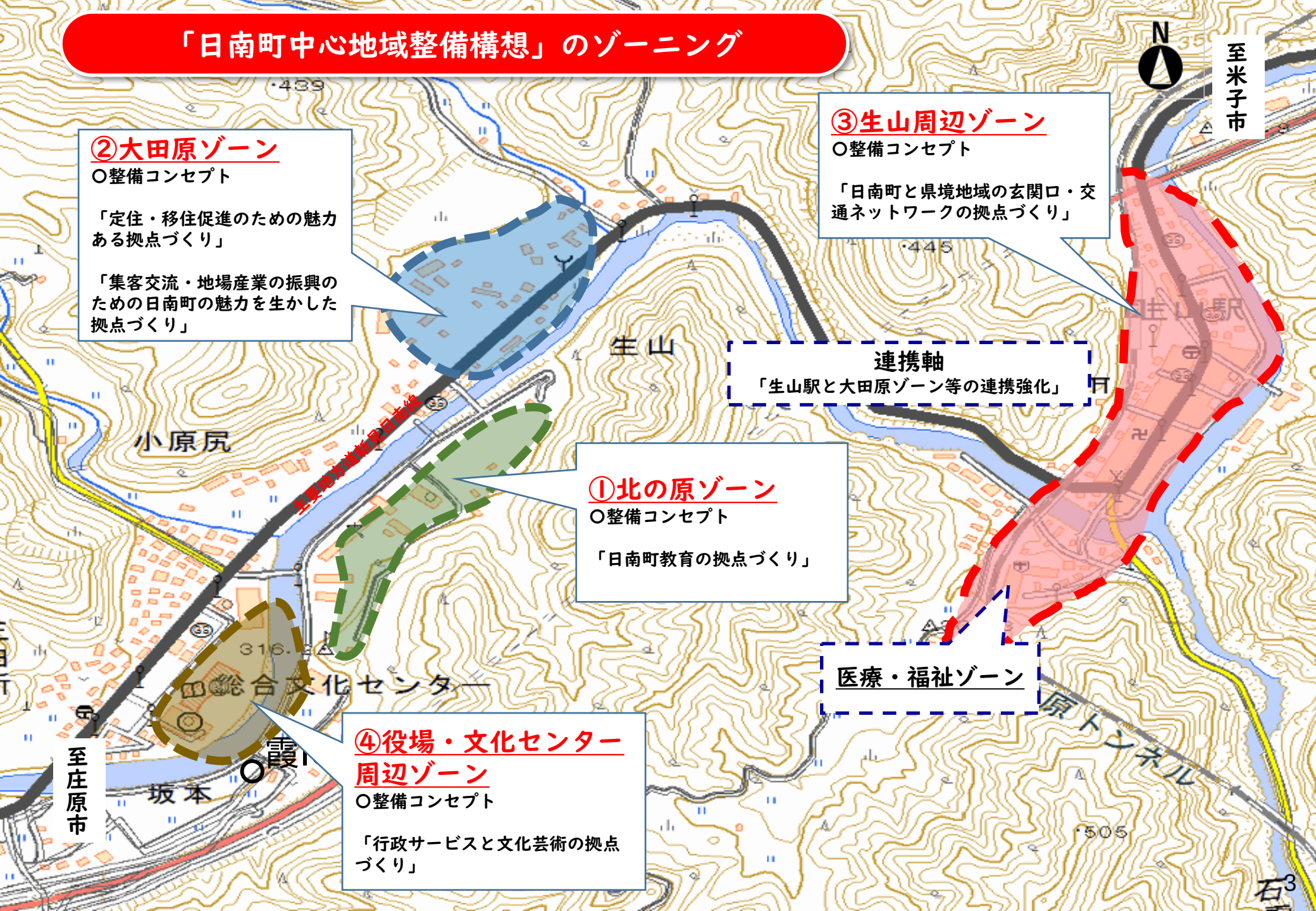
**キーワード**　『次世代に対し、責任ある選択のとき』

急速な人口減少に起因する産業や商業の衰退、行政の非効率を解消するため、日南町の中心地域として位置づけられる生山・霞地域を対象として、

①北の原ゾーン
②大田原ゾーン
③生山周辺ゾーン
④役場・文化センターゾーン　の4つを設定。

整備構想は、H22年度からスタートする**日南町第５次総合計画のうち、中心地域の土地利用や施設整備についての関連計画**として位置づけた。

# 「日南町中心地域整備構想」のゾーニング




## ②大田原ゾーン

○整備コンセプト

「定住・移住促進のための魅力ある拠点づくり」

「集客交流・地場産業の振興のための日南町の魅力を生かした拠点づくり」

## ③生山周辺ゾーン

○整備コンセプト

「日南町と県境地域の玄関口・交通ネットワークの拠点づくり」

**連携軸**

「生山駅と大田原ゾーン等の連携強化」

## ①北の原ゾーン

○整備コンセプト

「日南町教育の拠点づくり」

**医療・福祉ゾーン**

## ④役場・文化センター周辺ゾーン

○整備コンセプト

「行政サービスと文化芸術の拠点づくり」

# コンパクトヴィレッジ構想
## ～誘導する過疎「創造的過疎」への挑戦～

以降、４つのゾーンにおいて、生活に必要な諸機能（行政、教育、文化、医療福祉、商業）の整備・改修を進めてきた。

ウッドデザイン賞受賞
JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2016

にちなん日野川の郷

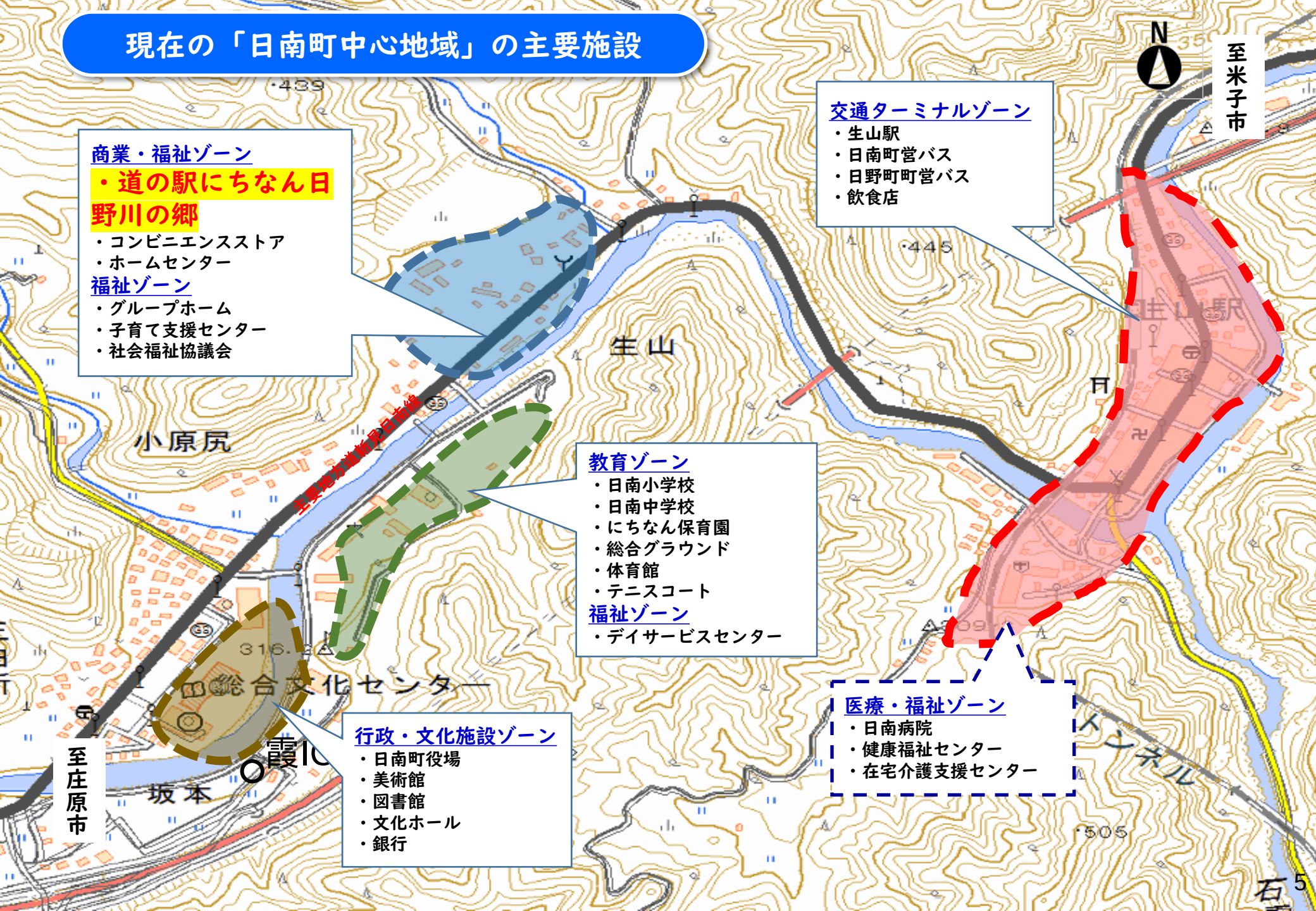
平成２７年、道の駅『にちなん日野川の郷』の建設を契機に…

**前増原町長⇒『コンパクトヴィレッジ構想』の打ち出し**

『住むのは地域（地域を守る）、生活機能は中心地域（町を守る）』

道の駅を核として半径１km以内に生活機能を集約する

# 現在の「日南町中心地域」の主要施設




**交通ターミナルゾーン**
- 生山駅
- 日南町営バス
- 日野町町営バス
- 飲食店

**商業・福祉ゾーン**

**・道の駅にちなん日野川の郷**
- コンビニエンスストア
- ホームセンター

**福祉ゾーン**
- グループホーム
- 子育て支援センター
- 社会福祉協議会

**教育ゾーン**
- 日南小学校
- 日南中学校
- にちなん保育園
- 総合グラウンド
- 体育館
- テニスコート

**福祉ゾーン**
- デイサービスセンター

**医療・福祉ゾーン**
- 日南病院
- 健康福祉センター
- 在宅介護支援センター

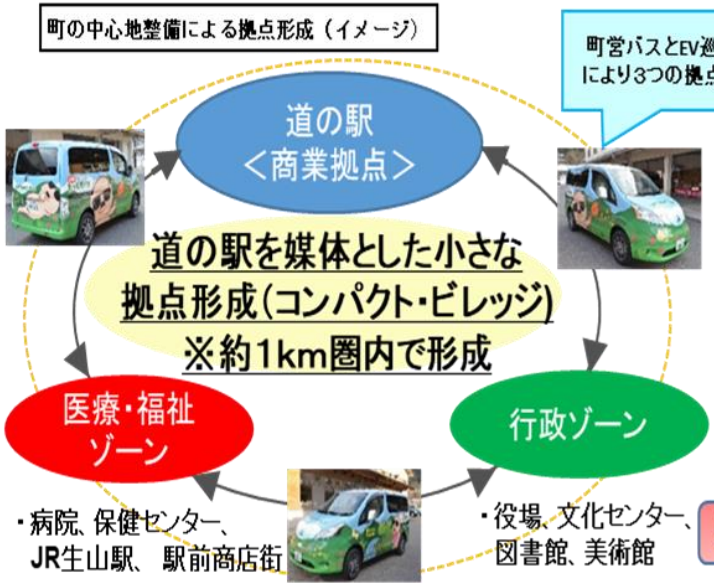
**行政・文化施設ゾーン**
- 日南町役場
- 美術館
- 図書館
- 文化ホール
- 銀行

# コンパクトヴィレッジ構想
## ～誘導する過疎「創造的過疎」への挑戦～

## 日南町が目指してきたのは

**緩やかな人口減少を実現させるコンパクトヴィレッジ『創造的過疎』**

町の中心地整備による拠点形成（イメージ）




「道の駅」が核となるとは？

日南CV構想はそれにとどまらない！

〈一般的なコンパクトビレッジのイメージ〉
生活に必要な諸機能を近接して配置し、効率的で持続可能なまちづくりを目指す。

### 1　産業・商業の媒体としての機能

**集客交流や地場産業の振興（6次産業化推進）**

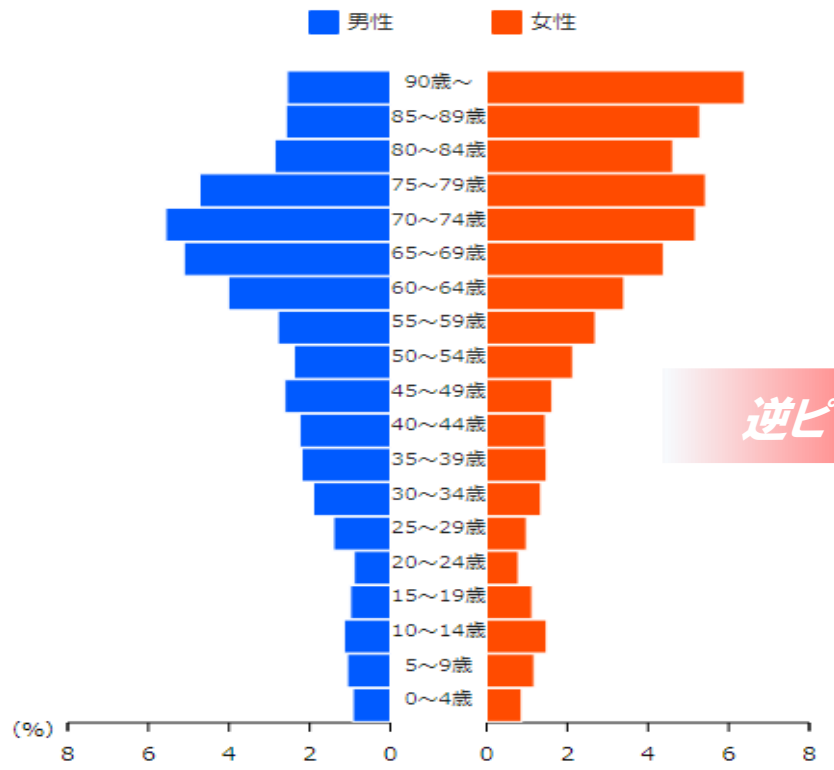
### 2　地域づくりの媒体としての機能

**魅力ある拠点づくりによる移住定住の促進**

# 低密度社会の急速な進展

- 20年後、人口は半減（4千人→2千人）し、高齢化が一層進展（2045年：高齢化率56％）。
- 生産年齢人口も3桁台（2045年：725人）となり、社会を担う中核人材不足が一層顕著に。

## 2025年

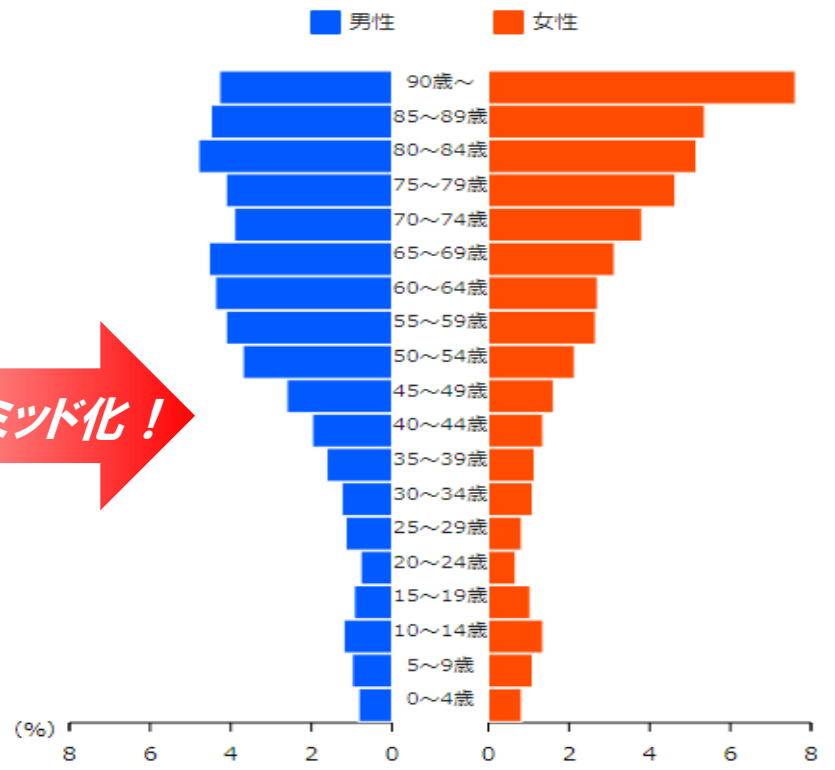



老年人口（65歳以上）：1,945人 （54.74%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：1,370人 （38.56%）
年少人口（0歳～14歳）：238人 （6.7%）

計：3,553人

逆ピラミッド化！

## 2045年




老年人口（65歳以上）：1,071人 （55.87%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：725人 （37.82%）
年少人口（0歳～14歳）：121人 （6.31%）

計：1,917人

【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2045年は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月公表）に基づく推計値。

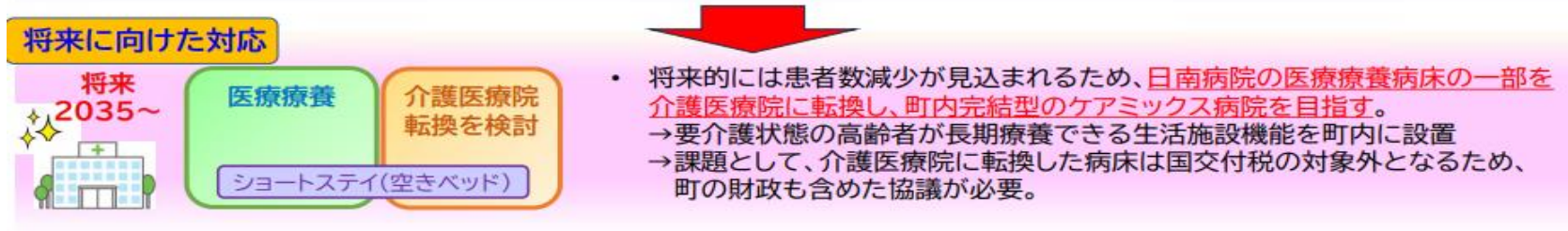
# 新日南病院の基本構想

- 中村町長からの諮問を受けＲ５年５月に『日南病院あり方検討委員会』が立ち上がり、新日南病院基本構想の策定に向けた議論が進められ、Ｒ６年３月に町長に答申。
- 町は、面積・規模や災害対応等を勘案し、Ｒ６年度中に新日南病院の建設場所を決定。また、日南病院も、５年後(R11)の開院を目指し、Ｒ６年度中に基本計画を策定。

**答申の主なポイント**

## ①人口減を踏まえ、「病床数」は99床→60～75床。将来、介護医療院に転換

将来入院患者数：45人(2030年)⇒41人(2035年)⇒33人(2045年)




## ②「診療科目」は、8科目→10科目(総合診療科、歯科の2科目新設)

内科、外科、小児科、整形外科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科、耳鼻咽喉科、総合診療科[新]、歯科[新]

## ③訪問歯科、訪問口腔ケアを新たに実施し、「出かける医療（在宅医療）」を強化

訪問医療、訪問看護、訪問リハ、訪問歯科[新]、訪問口腔ケア[新]

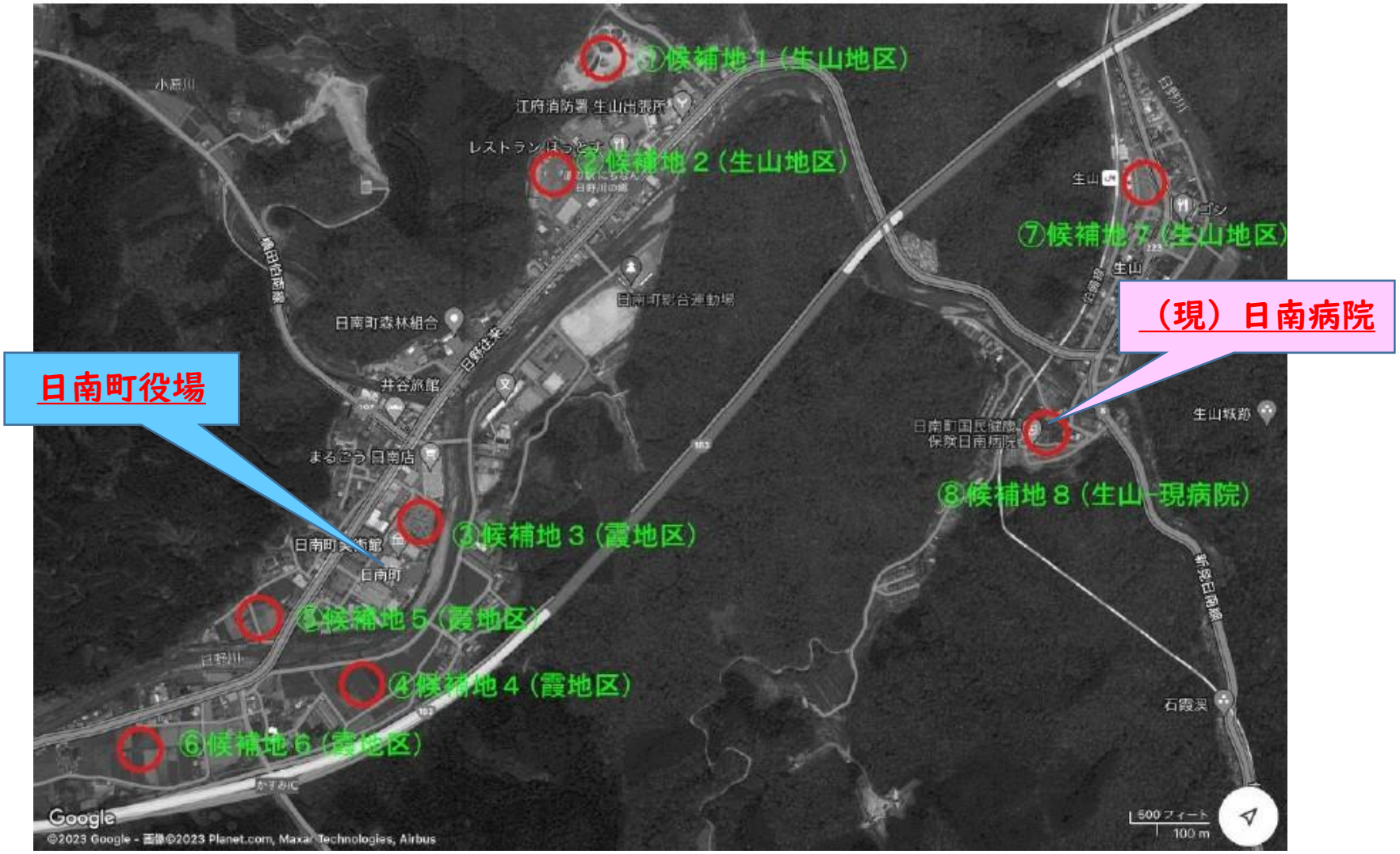
## ④「建設候補地」は、生山地区か霞地区が望ましい

# 新病院建設敷地 選定基礎調査に係る候補地（案） 位置図

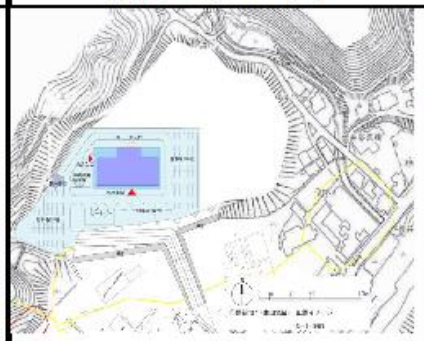
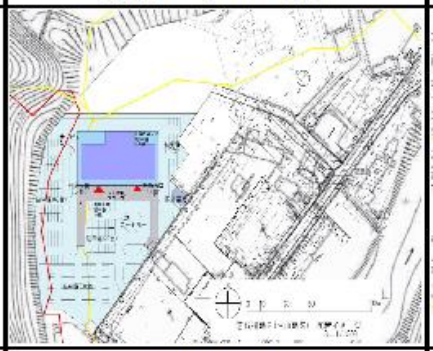
**「新病院建設敷地選定基礎調査（日南病院実施）」において、8つの候補地を機械的に選定。**

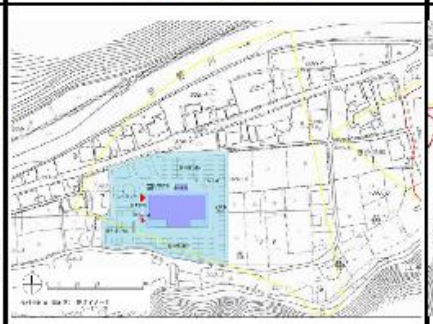
＜主な要件＞

生山・霞エリア内で、現に事業、住宅等の建物の用に供していない土地、かつ、平坦地で、一定規模の広さを有する土地



# 新病院建設敷地 選定基礎調査に係る候補地（案） 詳細情報

| | 候補地1（生山地区） | 候補地2（生山地区） | 候補地3（霞地区） | 候補地4（霞地区） |
|---|---|---|---|---|
| 配置イメージ |  |  | | |
| 位置 | 道の駅北側 | 道の駅西側 | 総合文化センター北側 | 日野川越しに日南町役場の対面 |
| 敷地面積 | 約 12,500㎡ | 約 13,000㎡ | 約 4,100㎡ | 約 14,000㎡ |
| 現況 | 山林（旧採砂場） | 宅地（工場） | 宅地（公共施設駐車場） | 水田 |
| 所有 | 民有地あり | 民有地あり | 民有地なし | 民有地あり |

| | 候補地5（霞地区） | 候補地6（霞地区） | 候補地7（生山地区） | 候補地8（生山地区：現在地） |
|---|---|---|---|---|
| 配置イメージ | |  | | |
| 位置 | 県道8号沿いの霞橋北側 | 県道8号沿いの水田 | JR伯備線生山駅前広場 | 現病院 |
| 敷地面積 | 約 9,800㎡ | 約 13,000㎡ | 約6,300㎡ | 約 7,400㎡ |
| 現況 | 水田 | 水田 | 宅地（駅前駐車場・ロータリー） | 病院 |
| 所有 | 民有地あり | 民有地あり | 民有地なし | 民有地なし |

# 令和5年度まちづくりアンケートを実施

- 日南町中心地域整備計画の策定にあたり、町民意見をしっかりと把握するため、次のとおり「まちづくりアンケート」を実施。

## まちづくりアンケート　基本情報

実施内容：中心地域整備計画に町民意見を反映するための「まちづくりアンケート」
調査項目：①生活環境の評価について
②まちの将来像について
③中心地域に必要機能について
④巡回バスについて
⑤まちづくり参加について
⑥その他について
⑦回答者の属性について
実 施 日：令和5年12月22日～令和6年1月25日
対 象 者：町内在住者から16歳以上1,000名（男性510名、女性490名）を無作為抽出
回答者数：457名/1,000名（45.7%）

# まちづくりアンケートでいただいた意見（抜粋）

## 年代別まちの将来像（まちづくりの方向性）

| 設問項目／年代 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 未記入 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 衣・食・住など生活環境が整ったまち | 10.4% | 14.1% | 13.0% | 14.8% | 18.0% | 17.5% | 14.4% | 20.0% | 8.0% |
| 2. 農地・山林を保全した自然環境が豊かなまち | 6.3% | 9.4% | 8.1% | 2.8% | 7.7% | 8.4% | 8.9% | 0.0% | 12.0% |
| 3. 歴史・文化を大切にするまち | 4.2% | 3.1% | 1.6% | 2.3% | 0.9% | 1.6% | 0.7% | 0.0% | 0.0% |
| 4. 福祉や医療が充実した健康福祉のまち | 25.0% | 12.5% | 13.8% | 20.5% | 22.1% | 23.0% | 22.6% | 26.7% | 20.0% |
| 5. 子育て支援や教育施設などが充実したまち | 14.6% | 21.9% | 19.5% | 17.0% | 12.2% | 10.2% | 7.5% | 20.0% | 18.0% |
| 6. 地域内外の交流が盛んなまち | 0.0% | 1.6% | 4.1% | 3.4% | 3.2% | 2.6% | 2.1% | 0.0% | 4.0% |
| 7. 移住定住ための住宅・分譲地が整備されたまち | 6.3% | 7.8% | 8.9% | 6.3% | 4.5% | 5.3% | 6.8% | 0.0% | 6.0% |
| 8. 商店の充実したまち | 10.4% | 3.1% | 4.9% | 2.8% | 5.0% | 3.5% | 4.8% | 0.0% | 2.0% |
| 9. 地域産業(資源)等を活かして雇用を創出するまち | 6.3% | 9.4% | 12.2% | 14.2% | 13.1% | 11.2% | 13.7% | 13.3% | 14.0% |
| 10. 地域資源を活用した観光が盛んなまち | 0.0% | 7.8% | 4.1% | 6.3% | 3.6% | 3.1% | 2.1% | 13.3% | 2.0% |
| 11. 災害に対する備えが充実したまち | 6.3% | 1.6% | 1.6% | 3.4% | 5.4% | 5.9% | 9.6% | 6.7% | 6.0% |
| 12. 防犯や交通安全などが充実したまち | 2.1% | 3.1% | 0.8% | 1.1% | 2.3% | 2.4% | 2.7% | 0.0% | 0.0% |
| 13. 住民によるまちづくり活動が盛んなまち | 8.3% | 4.7% | 7.3% | 5.1% | 2.3% | 5.3% | 4.1% | 0.0% | 8.0% |

# まちづくりアンケートでいただいた意見（抜粋）

## 中心地域に必要な機能（今後の機能整備や既存機能の強化）

| ①生山地区 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．観光情報発信機能（観光案内の充実、等） | 6.7% | 0.0% | 7.1% | 1.8% | 7.4% | 4.4% | 4.3% | 0.0% | 11.8% |
| 2．交通結節機能（JR駅・バス停、他の地区との公共交通の利便性向上、等） | 53.3% | 23.8% | 38.1% | 35.1% | 39.7% | 35.2% | 32.6% | 40.0% | 41.2% |
| 3．にぎわい機能（駅舎周辺施設の活用方法の検討、商店街の活性化、等） | 33.3% | 42.9% | 28.6% | 12.3% | 25.0% | 20.1% | 15.2% | 20.0% | 17.6% |
| 4．住居機能（世帯用アパートの建設、住宅分譲地の整備、等） | 0.0% | 14.3% | 14.3% | 17.5% | 2.9% | 4.4% | 0.0% | 0.0% | 5.9% |
| 5．医療機能（日南病院の改修、等） | 6.7% | 19.0% | 11.9% | 33.3% | 25.0% | 35.8% | 47.8% | 40.0% | 23.5% |

| ②大田原地区 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．交流拠点機能（道の駅（既存）、芝生広場の整備、等） | 18.8% | 38.1% | 32.5% | 23.2% | 20.3% | 8.6% | 2.4% | 0.0% | 23.5% |
| 2．商業機能（コンビニ・ホームセンター（既存）、等） | 50.0% | 28.6% | 37.5% | 32.1% | 30.4% | 25.8% | 43.9% | 20.0% | 35.3% |
| 3．福祉機能（グループホームあさひの郷（既存）、等） | 6.3% | 0.0% | 2.5% | 5.4% | 4.3% | 11.3% | 9.8% | 0.0% | 5.9% |
| 4．子育て支援機能（子育て支援センター（既存）、等） | 0.0% | 9.5% | 5.0% | 1.8% | 1.4% | 4.0% | 7.3% | 0.0% | 11.8% |
| 5．健康増進支援機能（健康増進施設の整備、等） | 6.3% | 14.3% | 5.0% | 12.5% | 10.1% | 9.3% | 7.3% | 60.0% | 5.9% |
| 6．医療機能（日南病院の移転、等） | 18.8% | 9.5% | 17.5% | 25.0% | 33.3% | 41.1% | 29.3% | 20.0% | 17.6% |

# まちづくりアンケートでいただいた意見（抜粋）

## 中心地域に必要な機能（今後の機能整備や既存機能の強化）

| ③霞地区 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．観光情報発信機能（観光案内の充実、等） | 12.5% | 4.8% | 0.0% | 3.5% | 7.1% | 3.4% | 2.3% | 0.0% | 11.8% |
| 2．広場機能（芝生広場の整備、等） | 12.5% | 9.5% | 9.5% | 5.3% | 4.3% | 0.0% | 2.3% | 20.0% | 5.9% |
| 3．住居機能（世帯用アパートの建設、住宅分譲地の整備、等） | 12.5% | 23.8% | 21.4% | 14.0% | 14.3% | 11.4% | 2.3% | 0.0% | 5.9% |
| 4．　行政機能　（日南町役場（既存）、等 | 31.3% | 9.5% | 26.2% | 33.3% | 38.6% | 41.6% | 36.4% | 60.0% | 23.5% |
| 5．文化振興機能（日南町総合文化センター（既存）、等） | 12.5% | 9.5% | 4.8% | 7.0% | 4.3% | 8.1% | 15.9% | 0.0% | 5.9% |
| 6．商業機能（パセオ（既存）、等） | 18.8% | 42.9% | 38.1% | 36.8% | 31.4% | 35.6% | 40.9% | 20.0% | 47.1% |

| ④北の原地区 | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1．教育機能（こども園（既存）、日南小・中学校（既存）、等） | 62.5% | 50.0% | 50.0% | 58.9% | 52.1% | 44.7% | 45.0% | 60.0% | 70.6% |
| 2．子育て支援機能（子育て支援センター、等） | 12.5% | 13.6% | 14.3% | 10.7% | 14.1% | 4.6% | 7.5% | 0.0% | 11.8% |
| 3．自然学習機能（自然歴史学習の場の創出、親水護岸の整備、等） | 0.0% | 13.6% | 4.8% | 0.0% | 4.2% | 2.6% | 7.5% | 0.0% | 5.9% |
| 4．通学機能（通学路の安全対策、等） | 0.0% | 4.5% | 2.4% | 1.8% | 5.6% | 7.9% | 0.0% | 20.0% | 5.9% |
| 5．福祉機能（かすみ荘の有効活用検討、等） | 18.8% | 13.6% | 11.9% | 17.9% | 16.9% | 21.1% | 27.5% | 0.0% | 5.9% |
| 6．健康増進支援機能（日南町総合運動場（既存）、健康増進施設の整備、等） | 6.3% | 4.5% | 16.7% | 10.7% | 7.0% | 19.1% | 12.5% | 20.0% | 0.0% |

# まちづくりアンケートでいただいた意見（抜粋）

## その他の自由意見

**自由意見**については、

◎「町政策の検討・強化」

◎「若者の参画機会の創出」

等に関する意見が多く寄せられた。

**世代別**に見ると、

◎若年世代では「定住人口増加対策」

◎中間世代では「雇用の場の創出」

◎高齢世代では「町政策の検討・強化」

に関する意見が多く寄せられた。

自由意見（世代別に区分）

# 第１回検討委員会における論点

## 論点①：中心地域の範囲・ゾーニング

### ◎中心地域の範囲、ゾーニングをどう考えるか？

≪検討の視点≫

- 中心地域の範囲は、生山地域、霞地域とし、道の駅を中心とする半径１kmの範囲内という方向で良いか。
- コンパクト・ヴィレッジ構想1.0は、道の駅を中心とする半径１km圏内において、４つのゾーンを飛び地形成していたが、４つのゾーンをひとまとめにするなど、エリア形成する方が妥当ではないか。

## 論点②：コンパクトビレッジのコンセプト（考え方・方向性）

### ◎「道の駅を核としたまちづくり（中心地域整備）」という現在のコンセプトをどう考えるか？

≪検討の視点≫

- 「活力創造」というよりはむしろ「町民の安全・安心な暮らし」を強く打ち出した方が良いのではないか。
- 「住むのは地域。生活機能は中心地域」という従来の基本的な考え方を継承しつつ、2040年人口半減、社会インフラの維持等を勘案すると、例えば、町全体の住民居住地を賢く縮めるなど、住民居住地のコンパクト性にまで踏み込んだ議論を行うか。

# 第１回検討委員会における論点

## 論点③：新日南病院の候補地選定

**◎８か所の候補地をどのように絞り込んでいくか？**

≪検討の視点≫

- 一旦、R5調査結果等に基づき絞り込み、その後、複数の候補地それぞれについて、まちの全体図を描き、町民の意見等を踏まえながら最終的に１か所に選定（２段階方式）してはどうかと考えるが、このような進め方で良いか。
- R5調査結果等に基づく絞り込み（第１段階）に当たっては、実行委員会内に専門部会（実行委員10名程度を想定）を設けて、検討することとしてはどうか。

  ⇒第１段階の絞り込み結果は、第２回中心地域検討委員会（７月開催予定）で、報告・議論。

# 参　考

# なぜコンパクトシティか？

国土交通省

**持続可能な都市経営（財政、経済）のため**

・公共投資、行政サービスの効率化
・公共施設の維持管理の合理化
・住宅、宅地の資産価値の維持
・ビジネス環境の維持・向上、知恵の創出
・健康増進による社会保障費の抑制

**高齢者の生活環境・子育て環境のため**

・子育て、教育、医療、福祉の利用環境向上
・高齢者・女性の社会参画
・高齢者の健康増進
・仕事と生活のバランス改善
・コミュニティ力の維持

## コンパクト＋ネットワーク

**地球環境、自然環境のため**

・CO2排出削減
・エネルギーの効率的な利用
・緑地、農地の保全

**防災のため**

・災害危険性の低い地域の重点利用
・集住による迅速、効率的な避難

限られた資源の集中的・効率的な利用で
持続可能な都市・社会を実現

# コンパクトシティをめぐる課題

国土交通省

## コンパクトシティをめぐる誤解

### 一極集中

市町村内の、最も主要な拠点（大きなターミナル駅周辺等）1カ所に、全てを集約させる

→ **多極型**

中心的な拠点だけではなく、旧町村の役場周辺などの生活拠点も含めた、多極ネットワーク型のコンパクト化を目指す

### 全ての人口の集約

全ての居住者（住宅）を一定のエリアに集約させることを目指す

→ **全ての人口の集約を図るものではない**

たとえば農業等の従事者が農村部に居住することは当然。
（集約で一定エリアの人口密度を維持）

### 強制的な集約

居住者や住宅を強制的に短期間で移転させる

→ **誘導による集約**

インセンティブを講じながら、時間をかけながら居住の集約化を推進

資料４

# 日南町中心地域整備検討委員会設置要綱

（目的）

第１条　日南町中心地域整備検討委員会（以下「委員会」という。）は、本町がこれまで進めてきた「日南町コンパクトヴィレッジ」をさらに発展させ、人口減にあっても「持続可能なまち」であり続けるための中心地域の機能強化・整備方針等について、意見を集約し、本町中心地域の今後の整備計画等に反映させることを目的として設置する。

（検討事項）

第２条　委員会は、前条の目的を達成するため、次の事項について協議を行う。

（１）日南町中心地域整備計画の策定に関すること

（２）新日南病院の立地及びまち空間との融合に関すること

（３）その他必要な事項

（組織）

第３条　委員会は２５名以内の委員で組織し、町長が委嘱する。

２　各委員の任期は、委嘱の日から令和７年３月３１日までとする。

３　委員会には、専門事項を調査又は検討するため、部会を設けることができる。また、当該専門事項に関する他の審議会等に調査又は検討を委任することができる。

（委員長）

第４条　委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は委員会を代表し、会議を総括する。

３　副委員長は委員長を補佐し、委員長が欠けたときは職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、町長が召集し、委員長が議長となる。

２　委員会は、委員の３分の２以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会は、必要に応じて関係者に出席を求めて意見を聴くことができる。

（庶務）

第６条　委員会事務は、地域づくり推進課及びまち未来創造課において処理する。

（雑則）

第７条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、町長が別に定める。

（附則）

この要綱は、令和６年４月１日から施行する。